

[課題]

プラトンの『国家』第一巻（ソクラテスとトラシマコスとの対話部分）を読み、その議論の内容について、以下の点に触れながら論評しなさい。

①2人の対話全体で問われている主要な問題は何か（「～か」という疑問形で明示すること）。②トラシマコスの主張はどのような論理になっているか。③ソクラテスの反論を整理するとどうなるか。

なお、論述の各要所で『国家』の原典（日本語翻訳でよい）から引用しながら解答してください。

[本文]

『国家』第一巻は、プラトンの恩師であるソクラテスとポレマルコスの両者間で、正義とは何かという問いについての対話から始まる。ソクラテスは正義についてポレマルコスに質問を重ねるが、だんだんと「善い人を利し、悪い人を害する」正義の固定概念が揺らいでくる。そして最後に、ソクラテスは正義そのものを定義することはできないと次のように述べる。¹

正義も正しいことも以上のものではないということが明らかになった以上、人はそれを他の何であると主張することができようか。

そのやりとりを聞いていたトラシマコスは、ソクラテスに対し「自分の方からは何も教えようとしなくて、他の人々から歩き廻って学ぶ」だけであると批判し、自ら議論に割って入ることになる。²

そして、その後、ソクラテスとトラシマコスの間で、正義が支配する政治のあり方についての議論が続く。まずはトラシマコスが次のように、正義と政治について口火を切る。³

政府はそれぞれ自分の利益を目標に法律を制定する、つまり民主制は民主制的な法律を、僭主制は僭主制的な法律を制定する、そして制定した上で、これが、すなわち自分たちにとっての利益が、被支配者にとって正しいことであると宣明し、それを逸脱した者を、法に反して不正を犯した者として懲罰する。しかしこの現政府は、思うに、力があって統治しているものであろう、従って強者の利益が正しいことであるという帰結が出てくることになる。

プラトンは、国家は支配者階級である守護者が、商工業者の営利活動をコントロールするように統治するべきだと考えていました。⁴ そこで強者の利益は正しいものではなく、国家全体の利益を前提にすべきという考えから、ソクラテスをして次のように述べている。⁵

どんな支配におけるどんなその他の支配者も、彼が支配者である限り、自分のための利益ではなくて、被支配者で、自分がその職人である当のもののための利益を探求し命令するの

です。

ソクラテスとトラシュマコスThrasymachusの議論の一番のテーマは、「国家建設の最大の善はなんであるか」という点である。プラトンは支配者階級のみが幸福になるのではなく、国全体が幸福になる支配を考察していた。そのためには神的で思慮ある魂によって支配されることがすべての人々にとってより善いことであり、支配者は哲学者であるべきだと主張した。⁶

一方、トラシュマコスは、不正は正義よりも強力なものであり、悪知恵を働かせる不正者が得をしてしまうのが通例の社会であるとした。そのため、支配者の強権的な命令や指示によって、非支配者が支配者の「正義」に服することで秩序が保たれるとし、次のように反論する。⁷

正しい人が不正な人よりあらゆるところで損をするということを考えてみなければならない。第一に、お互いに対してなされる商契約においては、何処でも、その共同関係が解体する時に、正しい人が不正な人よりもより少ないものを手に入れるのを見出すだろう。第二に、国に対することにおいては、献納する時には、正しい人は等しい持物のうちからより多くのものを献納し、他方（不正の人）はより少ないものを献納する、また支給がなされる時には、一方は少しも手に入れないが、他方は多くのものを獲得する。（中略）

不正は、それが申分なく実現されれば、正義よりも強力であり、また自由人らしきものであり、また主人らしきものである。そして、正しいこととは強者の利益であり、不正なこととは自分自身のための利益になることなのである。

ソクラテスは、トラシュマコスの自家撞着的な言説を批判した上で、次のような理想的な国家運営のあり方に結びつける。⁸

誰一人自らすすんでは支配したり、また他人の禍を立て直すことによって始末してやったりしようという気になるものなぞはいない、むしろその術によって立派になそうとする者は、決して自分のためではなくて、被支配者のために最善をなし、また術の命ずるところに従って命ずるものであるから、報酬を要求するのだ、と。こういうことのために、支配を引きうける気になってもらいたい者たちには報酬として銀なり、名誉なり、またもし支配しないなら、罰なりがなくてはならないようです。

ソクラテスは徳と知恵のある人による哲人政治を説いた。プラトンより100年ほど前の中国で、孔子は仁道政治を唱えた。両者とも専制的な王政を否定し、人徳や叡智のある国王による政治と法律による秩序を重んじた点で共通している点が多い。

文字数：1966字

<引用・参考文献>

-
- ¹ 山本光雄訳者代表『プラトン 国家他』（世界の大思想：1）河出書房新社，1965，pp.18.
 - ² 同上，pp.21.
 - ³ 同上，pp.22.
 - ⁴ 越田年彦執筆・監修『人と思想 100 人 スマート版』（世界の思想ガイドブック）清水書院，2016，pp.136 参考.
 - ⁵ 山本光雄訳者代表，前掲書，pp.27.
 - ⁶ 中野幸次『プラトン』（人と思想：5）清水書院，1967，pp.148 参考.
 - ⁷ 山本光雄訳者代表，前掲書，pp.28.
 - ⁸ 同上，pp.32.